

② 拠点

これまでの取り組みと現況・課題

郊外へと市街地を拡大してきたこれまでの都市づくりにおいては、地域の利便性を確保するとともに、都心への過剰な都市機能・交通の集中を避ける観点から、地域の生活利便機能等の提供を担う拠点を交通結節点などにおいて位置づけ、機能集積を図るための基盤整備や土地利用誘導を進めてきました。

この結果、市街地内には、都心のほか、市内各方面の主要な交通結節点などにおいて、多様な機能が集積した拠点が形成されています。ただし、機能集積の状況はそれぞれの拠点で異なっており、また、古くから集積の進んだ拠点などにおいて、建築物の建て替えなどの土地利用転換も見られます。高齢社会を迎え、日常生活に必要な機能を地域で身近に提供する必要性が一層高まる中、これらの拠点については、今後も、土地利用の現況や動向を適切に踏まえつつ、育成・整備していくことが必要です。

一方、これらの拠点のほかに、市内はもとより市外からも利用されるなど、より広域とのかかわりを持つ特徴的機能が立地し、この機能を核として更なる機能集積が進むことによって市街地が特徴づけられていく動向も見られます。今後は、この動向を適切に支え、誘導していくことが、既存の資源を活用しながら札幌の魅力と活力を高めていくことにつながるとの視点に立ち、拠点として育成・整備していくことが望まれます。

以上を踏まえ、今後、以下の方針のもとで各拠点を配置してその育成・整備を進め、都市全体の均衡ある発展を図ります。

基本方針（拠点）

- 交通結節性や、機能集積の現況および動向、隣接市との関係を含めた地理的な位置関係を踏まえ、都心のほか、さまざまな拠点を適切に配置して多中心核都市構造へと誘導します。
- 多中心核都市構造を構成する主要な拠点として、都心のほか、高次都市機能拠点、広域交流拠点、地域中心核を設定します。
- だれもが安心して、快適に、活力に満ちて過ごせる空間づくりを重視しながら、各拠点の育成・整備を図ります。

取り組みの方向

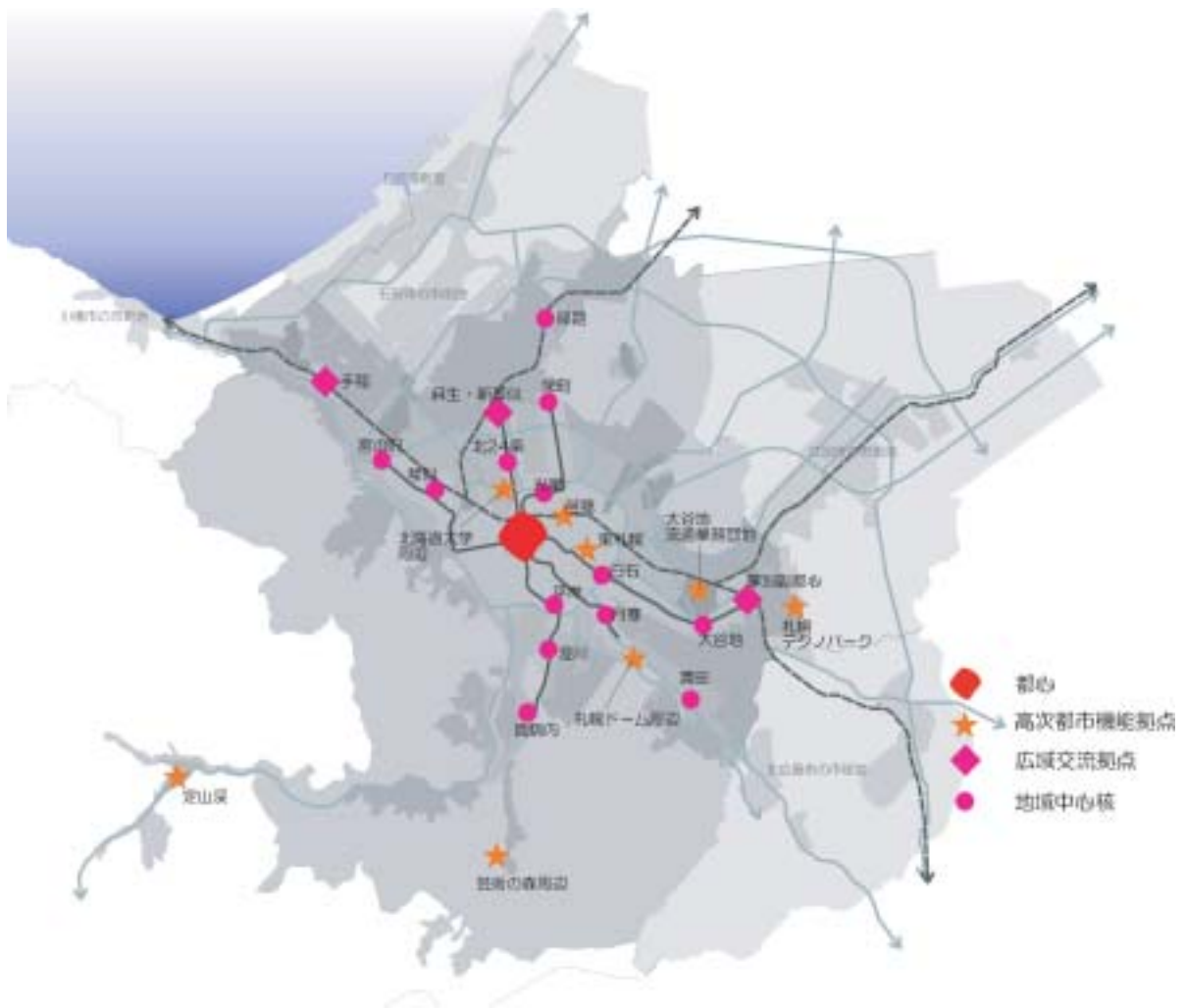
- ア 各拠点の特性に応じた多様な機能集積の誘導
- ・都市基盤の整備状況や機能集積の動向など、各拠点の特性を踏まえて用途地域等の地域地区を適切に指定するとともに、緩和型土地利用制度をはじめとした各種制度を効果的に活用し、民間都市開発の誘導・調整を進めて多様な機能集積を図ります。
 - ・地域課題や住民活動の熟度、民間都市開発の動向などを踏まえつつ、必要に応じて基盤整備や市街地開発事業を実施し、機能の集積・向上を支えます。

イ 質の高い空間づくりの誘導

- ・ユニバーサルデザイン*26による空間整備をはじめ、多雪・寒冷地にふさわしい多様な屋内空間やオープンスペースの創出・連続化，美しい都市景観の形成といった多様な観点から，魅力ある空間づくりを誘導します。

ウ 個々の取り組みを誘導する指針づくり

- ・拠点の育成・整備に向けて個々の取り組みを相互に連携・調整するため，地域の課題や住民活動の熟度などに応じ，住民等の各主体の協働による指針づくりを進めます。



■ 主要な拠点

*26 ユニバーサルデザイン 高齢者や障がい者のための特別な仕様をつくるのではなく，最初から多くの人の多様なニーズを反映してつくられた製品，建物，環境のデザイン

拠点別の取り組みの方向

ア 都心

都心は、多中心核都市構造を構成する最も中心的な拠点として、市民はもとより来訪者もが、都市生活の魅力を最もよく享受できる機能と環境を備えることが重要です。

そのため、中枢管理機能、商業機能、娯楽機能などのこれまで高度に集積されてきた機能に加え、芸術文化機能、高度情報機能、集客交流機能などのより高次の都市機能の集積を図るとともに、都心の魅力を身近に享受する生活を支える居住機能のあり方について検討を進めます。

また、都心内の各地区の個性や歴史的資源を生かした良好な都市景観の形成、建築物の壁面や屋上も含めたきめ細かな緑化、通行や休憩のほかイベントでの活用も視野に入れたオープンスペースや屋内広場の確保などにより、より魅力ある都心空間の創出を目指します。

さらに、雪の冷熱エネルギーの利用などによる環境負荷の低い地域熱供給システムの導入と、それを活用した都市開発事業の促進などについて検討を進めます。

都心

JR札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近、中島公園、大通公園の西端付近を頂点として結ぶ区域

イ 高次都市機能拠点

高次都市機能拠点は、国際的・広域的な影響を持って札幌の魅力と活力の向上を先導する機能で、都心を補完するものや、都心への立地が必ずしもなじまないものが特徴的に集積する拠点として以下を位置づけ、それぞれ期待される機能が十分発揮されるよう、その育成・整備に努めます。

札幌ドーム
周辺

札幌ドームと相乗効果の発揮できる機能を集積することにより、スポーツ文化や集客交流産業の振興にかかわる拠点としての形成を促進する。

札幌
テクノパーク

札幌エレクトロニクスセンターを核とし、情報関連産業にかかわる企業間の連携・協働による新たな事業の創出を促進する。

大谷地流通
業務団地

団地機能の高度化により物流の効率化を進め、交通混雑の緩和、環境への負荷や物流コストの低減に資する拠点としての役割の向上を図る。

東札幌

コンベンションセンターや産業振興施設、商業・業務施設などの集積により、集客交流産業の振興と活力ある企業や人材の育成を先導する拠点としての整備を進める。

苗穂

豊平川の水辺環境や都心との近接性、交通利便性の高さ、地域の産業資源などを活用しながら、居住機能の充実、集客交流産業の育成、オープンスペースの創出、歩行者ネットワークの強化などを段階的に進め、産業文化・交流地区の形成を目指す。

北海道大学 周辺	新しい産業の振興の源泉となる技術の研究開発，活力ある企業や人材の育成などに向けて，産・学・官が協働して取り組むための中心的な拠点としての形成を促進する。
芸術の森周辺	芸術，文化や産業の振興，産・学・官連携による研究開発機能強化などを図る。
定山溪	ゆたかな自然環境を生かし，スポーツ・レクリエーション活動のための拠点として，また，集客交流産業の振興の一翼を担う宿泊・滞在拠点として，その機能強化を図る。

ウ 広域交流拠点

広域交流拠点は，市内だけではなく，隣接都市も後背圏に持ち，多くの人々の日常生活を支える機能が集積する拠点として以下を位置づけ，後背圏に応じた生活関連機能や人の交流を促す機能の集積を図るとともに，居住機能との複合化について検討を進めます。

広域交流拠点	厚別副都心，麻生・新琴似，手稲
--------	-----------------

エ 地域中心核

地域中心核は，区やそれに準じた地域の日常生活を支える拠点として以下を位置づけ，それぞれの特性に応じて，多様な商業・業務機能，行政機能などの各種都市サービス機能の集積を図るとともに，居住機能との複合化について検討を進めます。

地域中心核	北24条，篠路，光星，栄町，白石，大谷地，平岸，月寒，清田，澄川，真駒内，琴似，宮の沢
-------	---

オ その他

以上の拠点のほか，地下鉄およびJRの駅の周辺においては，交通結節性や基盤整備状況などの地区特性に応じて生活関連機能等の立地に対応します。

また，生活関連機能等が特徴的に連たんし，周辺地域への利便機能が提供される動向に対しては，幹線道路沿道等において，地区特性に応じて適切に対応します。

なお，これまで市街地開発事業等の実施に当たり計画的に配置が位置づけられてきた利便施設用地においては，今後とも土地利用需要の動向を踏まえつつ必要な機能の立地に対応します。